

N・Sさん

1. はじめに

3度目の挑戦にして2次試験を突破することができました。振り返ってみると、家族・職場の理解とMMCで教わったことが合格の決め手であったと思います。そこで、合格に至るまでのプロセスを合格体験記として寄稿します。ご参考になれば幸いです。

2. 受験の動機

工業用計測器メーカーで経営企画関連の業務に従事しています。メーカーのため技術に強い人が多い一方、経営管理・企画といったスタッフ系人材の層の薄さが弱みとなっています。中小企業診断士の試験勉強と合格した先にある実務を通じて、そうしたスキルを身に付け会社への貢献度を高めたいと思ったのが受験動機です。

3. 受験歴

| | | |
|-----|----------------------------|------------------|
| H26 | 1次試験科目合格（経済・運営・中小企業経営） | 他校通信 |
| H27 | 1次試験合格 | 自習 |
| | 2次不合格（I:B II:C III:D IV:A） | 他校通信 |
| H28 | 2次不合格（I:C II:A III:C IV:A） | MMC マスターコース V 通学 |
| H29 | 1次合格 | 自習 |
| | 2次合格 | 自習(MMC 模試 3回受験) |

4. 一次試験の学習方法

高得点ではなく、合格を目的とするなら、①市販のテキストを各科目数回読み、②問題集と過去問を各選択肢の正解の理由、不正解の理由を説明できるまで取り組むことで、十分だと思います。留意点は、中小企業経営・中小企業政策は制度や統計数値が毎年変わるため、最新のテキストを使うことです。

5. 二次試験対策

3回受験したため、各年度の取り組みと結果を分けて記します。

1回目 過去問を1度も見ずに挑戦

学習内容

1次試験終了後、某受験機関の通信講座で学習をスタートしました。これまで二次対策を一切やっていないという焦りからか、講義を聴いてもどのように解答を書けばよいか全く頭に入りませんでした。過去問に一切目を通さずに本試験に望みました。

結果

案の定不合格となりました。二次試験の情報収集不足が敗因だと思います。

2回目 MMC マスターコース V 受講 万全の体制で臨んだと思っていたが・・・

学習内容

二次試験の独学は無理と感じたため、対策講座を受講することにしました。今までは通信だったため、今回は通学にしようとしてネットで情報収集した結果、MMCに決めました。理由は次のとおりです。

- ・本試験の模範解答が初見の 80 分で書けそうなものだった
- ・家から通いやすい
- ・答練の添削が丁寧らしい
- ・MMC 卒業生は中小企業診断士として優秀な人が多いらしい

MMC の解答メソッドはとてもシンプルです。それは、「**事前に用意したキーワードを使って、多面的な解答を採点者に読んでもらえるように書く**」ということです。マスターコース V では、1 月頃に過去出題された設問別に整理されたキーワード集を渡されました。このキーワード集を使い、解答の型通りに解答を書く練習を 9 月まで行いました。最初から最後までこの練習です。答練の難易度は多少のばらつきはあるものの、期間を通じてほぼ一定だったと思います。私の体感ですが、模試の難易度も答練と変わらないのではないのでしょうか。

シンプルとはいえ実際にやってみると、適切なキーワードを使っていなかったり、多面性に欠けていたり、上手く解答を書けませんでした。しかし、午前中に取組んだ答練はその日のうちにコメント付きで返却されるため、解答プロセスを講師の方に話しながらフィードバックを受けることができました。講師からのコメントと解説を基に、80 点を取れる答案を作成し再度添削を依頼する再答案もほぼ毎回行いました。この**フィードバック回数の多さと質の高さが MMC の良いところ**だと思います。

財務事例については、講義の後半に計算問題が配布され、30 分ほどかけて取組むことになっていました。難度は高く、時間内に正解できたことは一度もありません。また、ゴールデンウィークに財務事例の特別講座を受講し、本試験の頻出問題について重点的に取組みました。その際に事前に計算プロセスを用意しておくことの重要性を教わりました。財務事例に苦手意識を持っている方は受講をおすすめします。これ以降、財務事例は 6 割以上を安定して得点できるようになりました。

結果

模試の成績も安定して上位に入っていたため、今回こそはと本試験に望みましたが、結果は不合格でした。考えられる敗因は、過去問の学習不足です。答練は、「**事前に用意したキーワードを使って、多面的な解答を採点者に読んでもらえるように書く**」ことが出来ているかを確認するための問題であるため、設問も比較的平易で、根拠として引用すべき事例文も非常にわかりやすく（わざとらしく）配置されています。しかし、本試験問題は設問がわかりにくかったり、今までにない新しい論点を聞いてきたり、根拠となる事例文が各段落に散らばっていたり・・・と、MMC のメソッドを簡単には使わせてくれません。答練と再答案で解答プロセスを体に覚え込ませた後は、**過去問を使って本番に近い環境で訓練することが不可欠**であると、身をもって知りました。

3 回目 一次試験からの挑戦となるも、過去問重視の学習で合格

学習内容

「次ダメならあきらめる」と妻に宣言し、1 月から一次試験の学習を始めました。一次試験が終わるまで、二次対策は模試の受験と財務計算問題（毎日）のみでした。1 度合格すると勝手にわかるのか、一次試験は危なげなく合格できました。

一次試験終了後、8 月 10 日から二次対策を再開しました。MMC の直前講座は満席となっていたため、前年のマスターコースで配布された過去問と、財務特別講座の教材を使用しての自習となりました。今思えば、あれこれ手を広げず使い慣れた教材に絞ったのが良かったのかもしれない。過去問を使

って、「事前に用意したキーワードを使って、多面的な解答を採点者に読んでもらえるように書く」訓練と、財務事例の頻出問題に取り組みました。

「今年こそは合格できるんじゃないか」との期待を持ちながら9月、本試験前最後の模試を受けました。前回より良い出来と思っていたのですが、点数はいまひとつでした。返却時に川橋先生から、「解答が一本調子で多面性に欠ける」、「事例文の引用を上手く書いても大きく点差は付かない。解答の多面性が重要」とアドバイスをいただきました。自分で気が付かないうちに、事例文を上手く引用することばかりを気にしていたのでした。本試験まで1ヶ月を切っていましたが、学習方法を変更しました。具体的には、過去問の設問文だけを読み、「論点」、「解答の切り口」、「使用するキーワード」の3要素のみを書くことにしました。これにより、以前と比べて解答の多様性を強く意識できるようになっただけでなく、解答を文章にしないため短時間でより多くの設問に取り組めるようになりました。

3回目の本試験は、事前に決めた手順を守るよう心がけました。具体的には次のとおりです。

事例 I~III

- ① 設問文を3回読む
- ② 各設問の論点を設問文の横に書く
- ③ 特定の論点に偏っていないかどうかチェックする
- ④ 各設問の解答の切り口とキーワードを表形式に並べる
- ⑤ 事例文から解答の根拠を探す。(ここではじめて事例文を読む)
- ⑥ 解答用紙に書く

事例 IV

- ① 設問文を3回読む
- ② 設問の条件(端数の処理など)をマーカーで目立つようにする。
- ③ 使った条件は鉛筆で×をつける。
- ④ 解答は問題用紙の余白部分に丁寧に書く

4事例とも例年とは少し異なるところがありました。例えば、29年度の事例 III では、プロモーションのようなことが問われましたし、事例 IV では連結会計について問われました。しかし、不思議なことに落ち着いて対処することができました。これは、MMC で教わった方法で対処できる問題を解答手順どおりに処理したことが理由だと思います。とは言え、どうしても合格を確信できませんでした。試験終了後は一刻も早く試験のことを忘れてたく、耳を塞いで会場を後にしたのを今でも覚えています。

12月8日の合格発表日まで、試験のことをすっかり忘れていました。今年もだめだろうと協会のHPを見たところ私の受験番号が掲載されていたので、嬉しさよりも「あんな答案でよく合格できたもんだ」という気持ちが強かったです。これは合格体験記を書いている現在(平成30年1月3日)でも変わりません。

6. 合格のための留意点

合格まで4年かかりました。合格のために心がけたことを下記します。

本試験まで

- ・教材の基本は過去問である
- ・財務の計算問題に毎日1問は取り組む
- ・過去問を使用する際は目的を明確にする(今回は解答の骨子をつくる・・・など)

- ・字はきれいに書く。

本試験時

- ・事前に用意した解答プロセスを粛々と実行する
- ・ガッツポーズをしたくなるような解答は必ず疑う
- ・見たことのない問題は必ず出ると心得る
- ・終了の合図で筆記具から手を離す（隣の受験生が終了の合図後も書き続けていたため失格・退場となりました。）

7. MMCの講座受講を検討している方へ

最後に、MMCの特徴を簡単に記します。私はMMCを選んで後悔はありませんでした。

MMCのメソッドは非常に合理的です。理由は、二次試験の特性を十分に理解した上で考えられた対策だからです。持ち込み不可、初見の事例に対し80分という短時間で解答を求めているということは、出題者は高度な知識や分析、アイデアは期待していないはずで、MMCの「**出題者が期待している答え（キーワード）と解答の型を事前に用意して、採点者に読んでもらえる解答を置いてくる**」という方法は、初見の事例に対しても冷静な対応を可能にします。これにより精神的な余裕が生まれ、毎年各事例必ず出る、過去に見たことのない設問に対し「とりあえず一般的なことを書いて部分点をもらおうかな」と気楽に構えることができ、結果として安定して合格点が取れるのだと思います。

講師陣は皆熱意あふれる方ばかりで、合格まであきらめずに学習を続けることができました。また、どの先生に聞いても同じ答えが返ってくるため、教育方針の統一が図られています。メソッドだけでなく、こういった点もMMCをおすすめできるポイントです。

8. MMCの先生方へ

1次試験からの挑戦となりましたが、不思議とあきらめる気にはありませんでした。それは、MMCで学んだことを実践すれば必ず合格できるという確信があったからだだと思います。ありがとうございました。

以上